



長くとれるのはどっち?

スマイル農園のなるほど栽培

第1回

栽培指導 豊泉 裕 取材・文 豊泉多恵子
撮影 高橋 稔

伸ばすか

タテに

ズッキーニ

ヨコに

寝かすか

とよはずみ・ゆたか 1967年生まれ。東京都立川市の農業体験農園「スマイル農園」園主。江戸時代から続く農家の十代目で、就農25年め。2009年に農業体験農園を開設。105区画の利用者に、年間約50種類の野菜の栽培を指導する。

ベテラン農家・豊泉裕さんが、野菜づくりの疑問に鋭く切り込みます。年々、家庭菜園で人気が高まるズッキーニ。とれ始めは元気いっぱいですが、すぐに病気が出始め、梅雨明け前には栽培を終えてしまうことが多いようです。盛夏を乗りきって、少しでも長くとることはできないか。2とおりの方法を試してみました。

ズッキーニは、狭いスペースで栽培できるうえ、整枝や摘果、誘引などの作業が基本的に不要なことから、家庭菜園でも取り組みやすい夏野菜です。しかし、高温多湿に弱いため、病気や不稔などが発生して栽培期間が短くなりがちです。

そこで、栽培期間をなるべく長くする工夫として着目したのが「誘引のやり方」。ズッキーニの誘引は、タテに伸ばすとよい、ヨコに寝かすとよい、などといわれますが、どちらが正解なのでしょうか。2つの誘引法で、生育を比較しました。

苦土石灰100g/平方メートル、堆肥2kg/平方メートルで土づくりをし、元肥として普通化成(N・P・K=8・8・8)100g/平方メートル、発酵油粕150/平方メートルを施します。幅60センチメートルの畝に透明マルチを掛け、4月中旬に苗を株間1メートルで定植。植えつけ直後はポリトンネルで保温します。

株高40センチメートルぐらいまでは通常と同様に栽培し、収穫します。自然に受粉することもあります。が、確実な着果のためには、毎朝、人工授粉を行います。



主枝が、3本の支柱の間を垂直方向に伸びていく



株元を包囲するように、210cmの支柱を3本立て、主枝を直立させる。支柱と支柱の間から葉柄が出た状態になり、安定する

タテ誘引



株が倒れてきたら地面にわらを敷き、その上に主枝と葉を横たえる。主枝のところどころを、U字ピンで敷きわら越しに地面に留める



主枝を倒したい方向に誘導するため、その反対側に支柱を数本立てて「通せんぼ」。無理に倒そうとすると茎が折れるので、一気に誘導せず慎重に

ヨコ誘引

園芸用支柱で枝を矯正

株の高さが40センチメートルぐらいになったところで、誘引を開始しました。タテ・ヨコとも、株のまわりに支柱を差して誘引したい形に矯正し、適宜、麻ひもやU字ピンなどを使って固定します。老化した葉や病葉、収穫が終わった着果節以下の葉を切り、株元をすっきりさせます。

タテ誘引は、3本の支柱で株を囲み、その中で主枝を垂直に伸ばします。茎が伸びて上部が重くなってくるにつれて茎が折れたり潰れたりするおそれが出てきたので、茎に麻ひもを回しかけて、支柱につり上げぎみに誘引しました。

タテ誘引のメリットは、栽培面積が少なくすむこと。1株当たり60センチメートル(畝幅)×1メートル(株間)のスペースから、収穫が終わるまでほぼはみ出すことなく収まりました。また、下葉を適切に処理すれば、風通しと株元の日当たりがよくなり、病気の予防が期待できます。

ヨコ誘引は、倒したい方向に誘導して、茎をU字ピンで留めていきます。「通せんぼ」するため

に立てた支柱を差し直したり、差す角度を変えたりして、まるで盆栽さながら少しずつ茎を矯正します。株の下に敷きわらをして、地温上昇を抑え、泥跳ねを防ぐ作業も同時に行いました。ヨコ誘引は草丈が低く抑えられるうえ、茎を固定したことで、風に強くなりました。

ともに8月までとれた

4月から始めた誘引栽培は、タテ・ヨコともに梅雨と席雨明け後の猛暑、台風能耐えや8月に突入しました。

タテ誘引の株は高さ160㎝まで到達した8月半ばが最後の収穫で、後は人工授粉をしても実がつきませんでした。ヨコ誘引の株は、それから2週間ほど長い、8月いっぱいまで収穫できました。一般的には、梅雨明け後に草勢が低下して栽培を終えることが多いのに比べると、1か月～1か月半ほど収穫期間が伸びたといえます。

どちらの誘引法でも、下葉をていねいにかいて風通しをよくすることが、病気の予防、長期栽培の実現につながったとみてよいでしょう。

ヨコ誘引のほうがやや長もち

豊泉さんのなるほどね！

長期どりのポイントは株元の保護だね

ズッキーニは収穫期間が短く、専門に出荷する農家は、植えつけから1～2か月ぐらいのあいだに集中してとるのが一般的。株が大きくなっても、養水分の供給を担う茎は株元では1本なので、ここが傷んで株が終わってしまうことが多いのでしょね。

今回はていねいに誘引して、下葉も整理したことにより、タテ誘引、ヨコ誘引のどちらも比較的長く収穫できました。ヨコ誘引のほうが若干、株の寿命が伸びたのは、株元の負担が少なかったからではないでしょうか。株元にかかる重量に加えて、養水分の循環の面でも、重力に逆らって上方に押し上げるタテ誘引より、横方向に流すほうが円滑にいくのは道理です。

ただし、実際にやってみると、茎を折らないように曲げていくヨコ誘引は難しい作業でした。最初から苗を斜めに倒して植えれば、誘引が楽になったはずと後で気がつきました（苦笑）。

『やさい畑』（令和2年／2020年春号）